

文化学園服飾博物館だより

Vol.34

2021.3.1

- 見えない敵から身を守る！…………… 1
- 2020年の活動報告…………… 2
- 特 集…………… 3
- 2021年 展示のご案内…………… 4

編集・発行 文化学園服飾博物館

見えない敵から身を守る！ ～ 民族衣装にみる魔除けの工夫 ～

新型コロナウイルスの世界的な流行は私たちの社会生活に大きな影響を与えています。これまでも人類は細菌やウィルスといった「見えない敵」が引き起こす病気に脅かされてきました。科学が発達する以前、また衛生管理も行き届かない環境下の暮らしの中では、多くの民族の間で、病気は目に見えない「魔」によって引き起こされるものと信じられており、これを体に近づけないようにするため、民族衣装にはさまざまな「魔」を除ける工夫が凝らされました。

「魔」もウィルスも目には見えず、またこれを体に近づけてはいけないという考え方は、あながち間違ったものではありません。ここでは民族衣装に見られるさまざまな魔除けの工夫を見ていきましょう。各民族の考え方や、「魔」をいかに恐るべき存在と見ていたのかがうかがえます。

其の一

光るもので跳ね返す！

鏡片、銀など、光る素材を身に着け、日射しに反射させて邪気を祓います。



緑に光る玉虫をつけた上衣 (タイ)



鏡片をつけたブラウス (インド)

其の二

開口部分からの魔の侵入を阻止！

袖口、裾、胸元など、衣服の開口部分に模様を施したり、目に付く色の布を取り付けます。



ドレス (イエメン)



ドレス (ヨルダン)

其の三

背面や頭頂もぬかりなし！

自分の目の行き届かない背中、頭のてっぺんにも魔除けを加えます。



鶏のトサカを模した帽子 (タイ)。鶏は悪霊の嫌う朝を知らせる。



背面に大胆な模様を刺繍したベスト (パキスタン)



子供の着物の背守り (日本)

其の四

形や模様で威嚇！

鋭く尖った形状や、恐れられている動物のモチーフなどで、魔を遠ざけます。



猛毒を持つサソリの模様を並べたヴェールの縁 (アフガニスタン)



腕輪 (アフガニスタン)



虎の威を借る子供の靴 (中国)

其の五

音を鳴らして撃退！

動くとき音の出るものを身に着け、魔を寄せ付けないようにします。



足輪 (インド)



子守帯 (ペルー)



首飾り (ウズベキスタン)

其の六

潜むスキを与えず！

裾端の布をわざと切りっぱなしで残し、裾を折り返して縫わないことで、魔の潜む空間をなくします。



子供用上衣 (トルクメニスタン)



裾部分

其の七

迷路に閉じ込める！

迷路のような複雑な模様に魔を引き込んで閉じ込め、二度と出てこれないように封じます。



巻衣 (マリ)



肩掛 (ラオス)

ヨーロピアン・モード

7月18日～9月8日

新型コロナウイルスの影響から、春に企画されていた「ヨーロピアン・モード」展を、期間を変更して開催しました。本展では、18世紀のロココ時代から、産業の発達や社会の成熟とともに変化する19世紀を経て、若者や大衆が流行の担い手となった20世紀末まで、約250年の女性モードの変遷を、その社会背景とともに紹介しました。

第2展示室では「1960～70年代のモード」を特集しました。戦後世代の若者が発信する新たな感覚や自由な発想から生み出されたドレスの数々を、トピックスに分けて展示しました。



世界の藍

10月2日～12月18日

藍は世界中で古くから用いられている植物染料です。本展では、日本、アジア、アフリカ、中米など、約40か国の藍染の衣装や布を紹介しました。世界各地の藍染を一堂に展示することは、さまざまな地域の服飾資料を所蔵する当館ならではの企画といえます。藍染という一つの技法に注目することで、地域による特徴や違い、地域を超えた共通点などが浮かび上がりました。感染症の拡大防止に配慮しながら、開館日を減らしての開催となりましたが、新聞などにも取り上げられたことで、より多くの方に展示を知っていただくことができました。



東京国立博物館「きもの KIMONO」に協力

6月30日から8月23日まで東京国立博物館で開催された特別展「きもの KIMONO」に、当館から三井家旧蔵の打掛2点を出品しました。この展示は、鎌倉時代から現代までを総覧する大規模なきもの展覧会で、開催前から大きな注目を集めました。

打掛は「贅美を尽くす 豪商・太夫のよそおい」のコーナーで展示され、大胆な構図の華やかな打掛が来館者の目を引きました。



展示の様子

『HAIR MODE』「民族衣装 そのゆえん」に協力しました。

女性モード社が発行する月刊誌『HAIR MODE』の短期連載「民族衣装 そのゆえん」の記事作成に協力しました。2020年2月号から7月号まで6回の連載では、民族衣装がなぜその形態になったのか、どんな機能があるのかなどをイラストとともに分かりやすく説明しました。

『繊維月報』「CHRONICLE OF THINGS」に協力しています。

伊藤忠商事 繊維カンパニーの発行する『繊維月報』のコラム「CHRONICLE OF THINGS」に、2020年1月号から記事作成の協力をしています。服の形やデザインに関する歴史や理由を、服飾博物館の資料の画像とともに掘り下げて説明します。

『いきものづくし ものづくし』の監修に協力しました。

福音館書店の発行する子供向けの絵本『いきものづくし ものづくし 12』の中の「みんぞくいしょう」の監修に協力しました。さまざまな地域の民族衣装をイラストで紹介するこの本では、色や形、フォルム、素材感などがきちんと絵に表現されているのが重要です。当館所蔵の資料などを参考にしながら、出来上がった絵のチェックを行いました。

正面入口のサインを刷新しました。

オフィスビルの建物内にある服飾博物館は、入口がやや分かりづらいため、これまでフラッグ式のサインを掲出し、来館者がスムーズに来られるように図ってきました。しかし近年、大型台風がいくつも通過し、ビル風によるフラッグの落下も懸念されるため、安全上の観点から見直しを進め、シート状のものを外壁に貼る形式に変更しました。これまでよりサイズも大きくなり、また着物とドレスのビジュアルを取り入れたデザインは、遠くからでも認識しやすくなることでしょう。



新たな入口サイン

新しい生活様式下における文化学園服飾博物館の活動

文化学園服飾博物館 副館長 田中直人

2020年の年初以降、世界中が新型コロナウイルス感染症への対応に揺れています。日常における行動の変容が強く求められており、とりわけ感染拡大防止の最良の手段として、他者との接触機会を減らすことが常に意識されています。

来館いただくことを前提に進められる博物館活動において、こうした社会状況の変化がおよぼす影響は小さくありません。当館の展覧会運営においても、新しい生活様式に対応すべく、様々な取り組みをおこなっています。ここではその一端を紹介しながら、コロナとともに歩む日々における活動のあり方について、記してみようと思います。

博物館は、長時間の会話や大声での発声、大人数での会食といった、一般的に飛沫感染をおこしやすいとされる状況が生じやすい環境と言えますが、接触感染の可能性は他の集客施設と同様にあります。そこで、当館における感染拡大抑止の取り組みは、検温、マスク着用といった基本的な対策に加え、これら接触感染の可能性を低減することを意識しておこなわれてきました。

【検 温】

受付にて非接触の機器でおこなう。37.5度を超える場合は入館をご遠慮いただく。

【マスク着用】

スタッフはもちろん、来館者にもマスク着用の徹底をお願いする。

【手指消毒】

エントランスに消毒液を設置。来館者に手指消毒を呼びかける。

【施設内消毒】

1日2回、手すりやドアノブを中心に清掃業者による消毒作業をおこなう。

【入館者数上限の設定】

空調設備の換気能力から導かれる同時入館人数を従来の半分に制限。

【開館日の削減】

来館者、スタッフの安全を考慮し、感染拡大期には臨時休館日を設ける。
(変更の際はホームページにて告知)



消毒液の設置

入館の際、手指消毒、検温を実施し、受付にもバーテーションを設置しました。



ケース前の仕切り線
ケースに寄り掛かったり、手を触れたりすることがないように、足元に仕切り線を表示しました。

また、コロナウィルス蔓延下での社会生活では、他者との物理的な距離を保ちながら当初の活動目的を果たすための工夫も求められています。当館では、外出自粛が長引くなかでの資料観覧の新たな選択肢として、また、来館をいただくための準備情報の発信の場として、これまで行ってきたオンラインでの資料公開を、さらに充実させる予定です。当館ホームページからアクセス可能な「所蔵品データベース」の掲載件数の拡充を進めるとともに、展覧会に関わる新たなコンテンツを発信してゆくべく検討をおこなっています。加えて、例年受け入れております文化学園大学の館実習では、初めての試みとなるオンライン授業をおこないました。現場での実務を体験的に学ぶことのできる手法が課題となるため、引き続き内容の検討を進めてゆきます。

今後もしばらくは、社会的な繋がりのあり方に小さない制約が生じる状況が続きます。来館者の皆さんとのコミュニケーションについても、従来通りとはいかない面が多くありますが、知恵を絞ることで、これまでの繋がりのあり方に新しい要素を加えてゆけたらと考えています。



注意喚起掲示板の設置

入口に掲示板を設置し、入館時の注意事項を明示しました。分かりやすく、また一時、安らいた気持ちになっただけのよう、当館所蔵のファッションプレートからイラストを選び作製しました。



博物館実習のオンラインでの実施

例年、服飾博物館内で文化学園大学の学生が行う実習をオンラインで行いました。実習の質が落ちることのないよう新たなプログラムを組むなど工夫しました。

大沼 淳 元館長を偲んで

1987年から2018年までの長きにわたって服飾博物館の館長を務めた大沼 淳 前文化学園理事長が2020年11月21日に92才で永眠されました。

館長在任中は、実物資料による教育・研究を目指して所蔵資料を充実させ、2003年には博物館を甲州街道沿いの現在の施設へと移し、外部に開かれた服飾博物館を実現させました。また日本の染織文化を海外に紹介するため、フランス、ルーマニア、チリなどで博物館の所蔵資料を展示しました。文化交流にも熱心に取り組み、2015年には、韓国でも貴重な徳恵翁主*の儀礼服を韓国文化財庁に寄贈し、日韓交流の促進を図りました。

大沼元館長は、東京国立博物館の評議員会長や日本博物館協会の評議員も務められ、博物館活動にも積極的に関わられました。

文化学園理事長というお忙しいお立場にもかかわらず、学芸室にもしばしば立ち寄り博物館の意義についてお話をされたり、会期中何度も展示をご覧になって感想を述べられたり、といったお姿が印象に残っています。ご冥福をお祈りいたします。

*徳恵翁主(トッケオンジュ)…李氏朝鮮王朝の26代国王・高宗の王女



パリで開催された「きもの展」にて(2008年)



ベルギーのマチルド妃をご案内(2012年)

寄贈式典で覚書を取り交わす
大沼元館長と韓国文化財庁長
(2015年)



2月18日(木)～4月22日(木) * 3/5、4/16 は19:00まで開館

ヨーロッパ・モード

ヨーロッパのドレスは、それぞれの時代でスカートの形や丈、袖の大きさなどに流行が見られます。これらの流行は、女性の好みやデザイナーの創造力のみによるものではなく、政治的、経済的、社会的な要因が密接に関係しています。本展では、18世紀後半から20世紀末まで、ヨーロッパを発信源とする約250年の女性モードの変遷を、その社会背景とともに紹介します。また特集「19世紀末からの服装改革」では、変化する社会とともに活動的になりはじめた女性のドレスやスポーツ服などを展示します。



5月21日(金)～6月21日(月) * 会期中無休。毎日19:00まで開館

Dreams - to be continued - 高田賢三 回顧展

「夢、に向かって。夢、持ち続けること。それって僕の永遠のテーマかな？」かつて未来のクリエイターにそんなメッセージをくれた高田賢三氏。パリで作品を発表した1970年春のデビューから50周年を迎えた2020年10月に、ファッションデザイナー高田賢三氏が新型コロナウイルスによる合併症でこの世を去りました。回顧展では、文化服装学院の卒業生である高田賢三氏の、学園に保管されている多くの服飾作品や出版局での取材記事、写真などで1970年代から80年代のパリモードを牽引した氏の足跡を辿ります。



7月15日(木)～9月28日(火) * 夏期休館＝8/7～17 7/16、9/17 は19:00まで開館

公益社団法人 京都染織文化協会創立80周年記念

再現 女性の服装1500年 - 京都の染織技術の粋 -

平安遷都以降、貴族や武家、裕福な町人の華やかで贅沢な衣生活を支えたのが都の工人たちでした。工人たちは応仁の乱などの苦難を乗り越え、新たな染織技術を次々に生み出し、現代に至っています。しかしその間、京都の染織が一時期低迷することもありました。昭和6年(1931)、京都の染織業の振興を図るために行われたのが京都染織祭でした。本展では、当時の京都の染織技術を結集して復元された、古墳時代から江戸後期に至る女性の服装の1500年をたどるとともに、当館所蔵の江戸後期から昭和初期の優品を展示します。

11月1日(月)～2022年2月7日(月) * 11/3 は開館、11/5 は閉館
年末年始休館＝12/28～1/5
11/12、1/21 は19:00まで開館

民族衣装 - 異文化へのまなざしと探求、受容 -

世界では多様な民族衣装が着られています。情報が少なく世界が隔てられていた時代、他の民族がどのような衣服を着ているのかを容易に知ることはできず、それを知ることは人々の好奇心を満たし、また重要な情報のひとつとなりました。展示では、民族衣装が描かれた書物や、民族衣装の研究・フィールドワークなどに焦点を当て、ヨーロッパや日本で、アジアやアフリカの民族衣装がどのようにとらえられてきたのかを探ります。また、民族衣装の影響を受けたヨーロッパのドレスを、元となった民族衣装とともに紹介します。



利用案内

- ◆ 開館時間 10:00～16:30
(各展示会期中2回、19:00まで開館 入館は閉館の30分前まで)
- ◆ 休館日 日曜日、祝日、夏期・年末年始、展示替の期間
- ◆ 入館料 一般 500円・大高生 300円・小中生 200円
* 20名以上の団体は100円引、障がい者とその付添者1名は無料
- ◆ 交通 JR/京王線/小田急線 新宿駅(南口)より徒歩7分
都営地下鉄 新宿線/大江戸線 新宿駅(新都心口)より徒歩4分

① 上記予定は都合により変更される場合があります。最新の情報はホームページでご確認下さい。



文化学園服飾博物館

〒151-8529 東京都渋谷区代々木3-22-7
TEL 03-3299-2387
TEL: museum.bunka.ac.jp

100 学校法人 文化学園
文化学園は2023年に創立100周年を迎えます。
文化学園大学/文化ファッション大学院大学/文化服装学院/
文化外国語専門学校/文化出版局/文化学園服飾博物館